

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

## 心理学から導き出される

### 「やる気」「意欲」の正体とは？

#### 『モチベーションの心理学』

―「やる気」と「意欲」のメカニズム―

鹿毛雅治（教職課程センター教授）著  
中公新書／1100円（2022年1月）



多くの人が勉学で、仕事で、あるいは日常生活全般で「やる気」「意欲」をうまくコントロールしたいと切望しているはずだ。著者は、世間のニーズに応えるかのように次々と刊行される「ポジティブに考えろ」「目標を設定せよ」といった書物の言葉で、問題はすっきりと解決されないと語る。こうしたいくつかの「処方箋」によって解決するほど、単純な心理現象ではないと言う。教育心理学を専門とする著者によって書かれた本書は、「やる気」「意欲」とは何かを問いながら、「目標説」「自信説」「成長説」「環境説」など現代心理学が導き出したモチベーションの理論を分かりやすく紹介する。

## 教職員執筆の最新刊

●樋口美雄（名誉教授）ほか編

『コロナ禍における個人と企業の変容―働き方・生活・格差と支援策』

慶應義塾大学出版会／4950円（2021年11月）

●大沼あゆみ（経済学部教授）ほか著

『環境経済学の第一歩』

有斐閣ストゥディア／2200円（2021年12月）

●高桑和巳（理工学部教授）著

『哲学で抵抗する』集英社新書／902円（2022年1月）

●山中直明（理工学部教授）編著、ほか著

『ビヨンド5Gが描く未来―2030年の技術・暮らし・ビジネス』

慶應義塾大学出版会／1980円（2022年1月）

●大石裕（名誉教授）著

『国家・メディア・コミュニティ』

慶應義塾大学出版会／5060円（2022年2月）

●井上逸兵（文学部教授）著

『もつともシンプルな英語ライティング講義』

慶應義塾大学出版会／1980円（2022年2月）

## 慶應義塾この一冊

『エンジョイベースボールの真実』

―球縁に導かれた

波瀾万丈の野球道』

堀井哲也（体育会野球部監督）著

ベースボール・マガジン社／

1760円（2021年12月）



2021年、義塾体育会野球部は30年ぶりとなる東京六大学春秋連覇の偉業を達成、同年6月の全日本大学選手権でも34年ぶりの優勝を果たした。選手たちを率いた堀井哲也監督は、かつて野球部で外野手を務め、2019年母校の監督に就任した。本書は、堀井氏が自らの野球人生について語り尽くした半生記。失敗や挫折があっても常に粘り強く、ベストを尽くして野球と向き合ってきた堀井監督。学生時代に指導を受けた故前田祐吉元監督の「エンジョイベースボール」という言葉に込めた思いなど、波瀾万丈の野球道に育まれた指導者としての考え方が、誠実な文章でつづられている。